2020年　JBCC

【日本ビジネススクール　ケース・コンペティション】

知と智のMBA頂上決戦

２０２０年7月
ＪＢＣＣ２０２０実行委員会
Japan Business School Case Competition Execution Committee

ＪＢＣＣとは
－学生の学生による学生のためのケースコンペティション

JBCC

JBCCとは

- 国内の現役MBA生が、課題を抱える日本企業の再生と成長に向けた戦略を競う、年に一度の全国的なケースコンペティション。
- 多くの参加者がJBCCを通じ学びを得てきた伝統あり。2020年度は11回目の開催となる。

大会の流れ

- 事前予選を経て、勝ち抜いた20チームが一堂に会する本戦を行う。本戦発表ではプロ経営者からの審査を受ける。
- 特に本戦グランドファイナルは、大観衆の前で戦略プレゼンを行う貴重な場となる。

本戦グランドファイナルの様子

大会の運営体制

- ご協賛企業やご関係省庁より、ご支援・ご協力を頂き大会を運営。
- 大会の運営、企画、ケース作成等は、各大学院から集まった有志の実行委員が行う。

大会表彰式の様子

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

ＪＢＣＣ開催の背景
－国内ビジネススクールの学習環境と外部実世界との繋がり

JBCC

教室内での学びを
対外的に発揮する場

= 各大学
ネットワーク

× 教室での学び

＋ 学びのアウトプット
教室外での学び

多数のトップ企業のOB
＋
国内外様々な
バックグラウンドの学生

主に日本語の
ビジネスケースによる
学び&理論の習得

イベント等を通じた企業や
他のビジネススクール生
との接点

→ **国内ビジネススクール過程における「学びのアウトプット」「教室外での学び」の機会をもっと増やしたい**

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

ＪＢＣＣの目的
－国内ビジネススクール全体のバリューアップ、交流活性化

ＪＢＣＣの活動	経済界への貢献	国内ビジネススクールへの貢献
より実践的な学習の場創出 × ビジネススクール学生主体の活動充実	有能な将来の経営コア人材輩出に寄与	・国内ビジネススクール全体のバリューアップ ・他のビジネススクールとの交流活性化

→ ＪＢＣＣの活動を通じて、有能な将来の経営コア人材輩出に寄与し、**国内ビジネススクールの価値向上と交流**を活性化させる

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

ＪＢＣＣ２０１９の実績報告

年々規模を拡大、国内MBA最大のコンペになっています！

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
学校数	8	15	12	19	21	22	21	25	22	**23**
エントリー数	73	256	188	382	560	599	598	623	681	**530**
チーム数	20	68	51	105	151	160	165	170	161	**119**
観覧者数(概数)	183	400	400	400	500	500	550	540	500	**350**

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

ＪＢＣＣ２０１９の出場校

ＪＢＣＣ２０１９大会の出場校一覧（出場チーム数順）			
1	グロービス経営大学院	8	中央大学大学院
2	慶應義塾大学大学院	9	明治大学大学院
3	早稲田大学大学院	10	マギル大学大学院
4	一橋大学大学院	11	九州大学大学院
5	青山学院大学大学院	12	法政大学大学院
6	K.I.T.虎ノ門大学大学院	13	立教大学大学院
7	神戸大学大学院	14	関西学院大学大学院

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

過去の大会について

JBCC

過去大会の歴代優勝校			
第1回	慶應義塾大学大学院	第6回	一橋大学大学院
第2回	グロービス経営大学大学院	第7回	慶應義塾大学大学院
第3回	神戸大学大学院	第8回	グロービス経営大学大学院
第4回	一橋大学大学院	第9回	神戸大学大学院
第5回	グロービス経営大学大学院	第10回	グロービス経営大学大学院

近年は参加校の幅が広がってきていますが、どの学校にも優勝のチャンスがあります！

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

ＪＢＣＣ２０２０概要
―以下概要を予定(一部内容が変更になる可能性があります)

日程	■ JBCC2020はコロナウイルス感染症の影響や社会情勢を踏まえ、11月8日(日)に本選日程を変更しました。
開催方式	■ 情勢を踏まえ、現在はオンラインでの本選開催に向け準備を進めております。 ■ エントリーは7月15日(水)より再開しております。
テーマ	■ 日本企業が抱える問題点・課題をケース分析を通じて提言
参加対象	■ ビジネススクール、大学院（経営学）
参加形式	■ チーム制（1チームあたり2～5名）、参加費不要
優勝賞品	■ 賞金（予定：優勝チーム30万円）、記念品等
審査方法（予定）	■ 予選：書類（A4:本文2枚、添付資料3枚(18スライド)、財務諸表2枚、出所一覧1枚の計8枚） ■ セミファイナル、グランドファイナル：プレゼンテーション
審査協力（予定）	■ 経済産業省、㈱経営共創基盤、フロンティア・マネジメント㈱他、スポンサー企業様等にご依頼予定
後援（予定）	■ 経済産業省、文部科学省
主催	■ ＪＢＣＣ2020実行委員会

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

新たなスケジュールに関して

JBCC

延期後のスケジュールは以下の通りです。エントリー再開は7月15日なので、まずは皆さんのエントリーをお待ちしております！

エントリー再開	**7月15日（水）**
エントリー締切	**8月9日（日）**
ケース発表	**8月10日（月・祝）**
予選資料提出締切	**9月5日（土）**
予選突破チーム発表	**10月前半頃**
本選（オンライン）	**11月8日（日）**

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

エントリー再開にあたってのQ&A：①

JBCC

1. 本選オンライン開催という判断に至った経緯は？

- ✓ これまで本選に一堂に会してプレゼンや審査を行ってきたJBCCの性質上、当初はオンライン開催が現実的でないと考えておりました。しかし昨今、日常的な業務や学校の授業のみならず、学会等のイベントもオンラインが一般的になっています。
- ✓ そうした状況を踏まえてJBCC実行委員会内で協議した結果、本選のオンライン開催が実現可能との考えに至ったこと、そして関係する皆さまの安全を最優先する観点から、本選をオンライン開催で行うことを決定いたしました。

2. 本選オンライン開催に関する詳細は？

- ✓ 現在実行委員会でオペレーション面の準備、確認を進めております。詳細は改めてご連絡させて頂きます。

3. 延期前に既に一度エントリーしているが、再エントリーは必要か？

- ✓ 申し訳ありませんが、延期前にエントリー頂いた登録は取り消しとなっております。お手数ですが、改めてエントリーの手続きをお願い致します。

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

エントリー再開にあたってのQ&A：②

JBCC

4. 11月の時点で既に学校を修了してしまう。

- ✓ 本来の出場資格（2020年4月時点で、国内に拠点を構えているビジネススクールの在校生（本科生）であること）に合致していれば、11月の時点で学校を修了されている場合でも、エントリーは可能でございます。

5. 出題やプレゼンテーション、審査の形式は？

- ✓ オンライン開催となっても、例年通りの厳正な審査や大勢の観覧者の前でのプレゼンテーションの機会を確保致します。本選（セミファイナル、グランドファイナル）はリアル会場の代わりにWeb会議ツールを使用し、出場チームによるプレゼンテーションや審査員との質疑応答を実施する予定です。また、本選の模様は動画配信サービスを通じて中継する予定です。
- ✓ JBCCオリジナルケースによる出題や、予選・本選で出場チームに作成・提出頂く書類などは、おおむね例年通りを予定しています。オンライン開催でも、経営共創基盤の冨山和彦代表取締役CEOをはじめ、ビジネスの第一線で活躍されている経営者やコンサルタントの皆様に審査頂く予定です。

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

スケジュール等最新情報はHPに

JBCC

- 今後のスケジュール等はHP上でも最新情報を更新していく予定ですので、適宜ご確認ください。

JBCC2020実行委員会

実行委員長ご挨拶

「知と智のMBA頂上決戦」　国内MBAの全国大会開催

日本ビジネススクール・ケース・コンペティション（以下、JBCC）は、国内ビジネススクールで学ぶ学生の皆様に、教室内での学びを対外的かつ実践的にアウトプットすることができる場や、学校間で切磋琢磨しつつ交流ができる場を提供させて頂くことで、国内ビジネススクールの価値向上、ひいては将来の経営コア人材輩出に寄与することを目的とした大会です。
これまで多くの方々のご協力ご支援を賜りまして、また歴代の実行委員の方々が積み上げてきてくださった実績によって、2020年度もJBCCを開催させて頂くことになりました。

毎年作成しておりますJBCCのオリジナルケースには、昨今の日本企業が抱える様々な問題が散りばめられています。出場チームは、ケース企業が抱える様々な経営課題を多角的な視点で捉え、それに対応する適切な戦略を構築するため、冷静客観的でありつつも情熱を持って取り組んでいく必要があります。そのためには、日々学んでいる様々な分野の経営知識や、各自の経験をフル活用していく必要があります。
短い期間の中での戦いとなりますので、出場チームのチームワークやプロジェクトマネジメントの実効性を高めることも、重要な要素となります。これらは大変やりがいのある取り組みになるでしょう。

そして、予選通過チームが一堂に会する本選で、出場者はプロフェッショナル審査員への戦略プレゼンテーションを行うと同時に、他チームのプレゼンテーションにも触れることで、更に大きな刺激を受けることができるはずです。

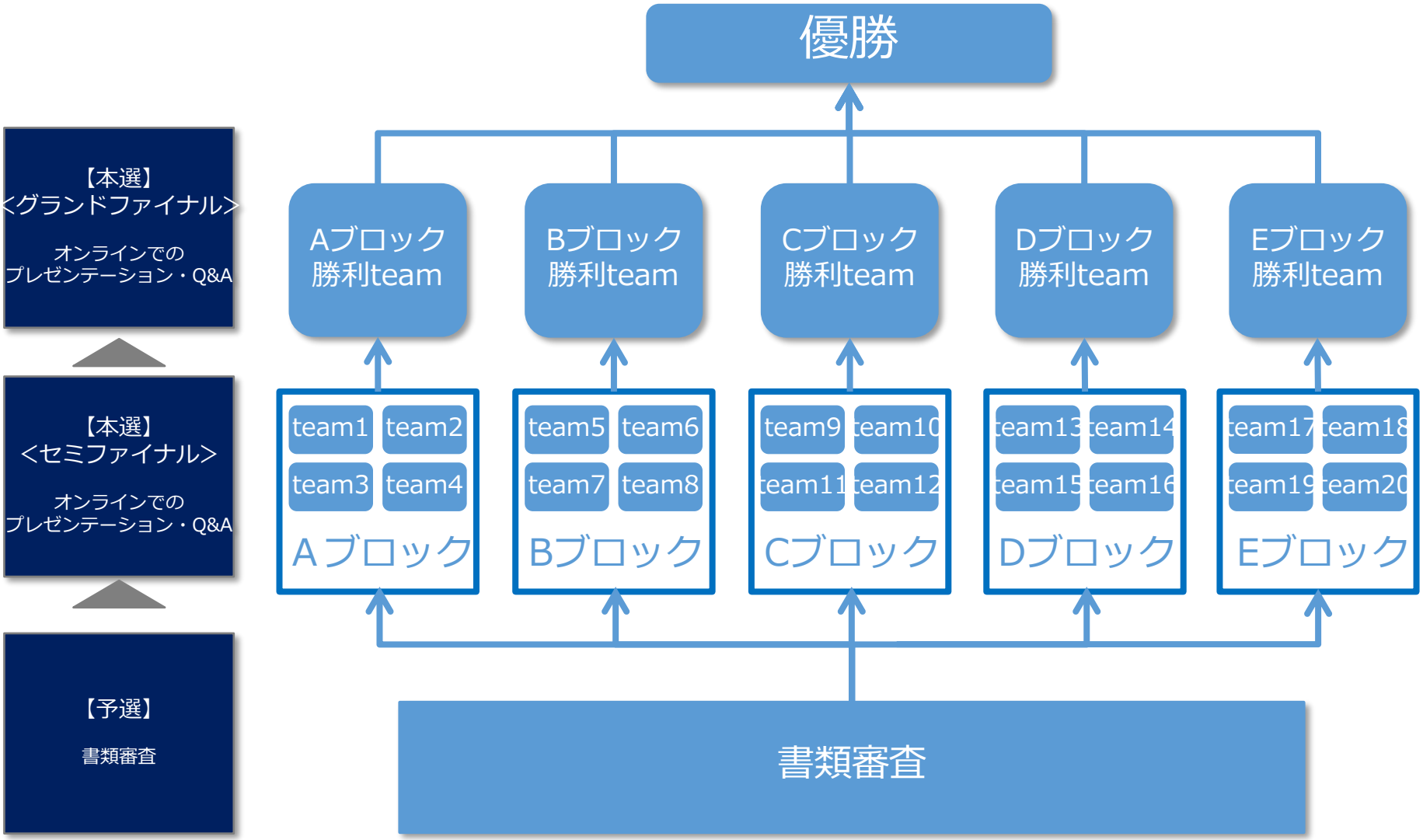
JBCC自体は開催11回目を迎えます。これまでの伝統として残すべき点と、改革していくべき点を実行委員一同考え、形にしていこうと考えております。その一環として、これまで一貫して日吉の慶應義塾大学で行ってきた本戦を、新たな会場へ移すことなども検討しております。
仲間とともに戦略を練り上げ、ビジネススクール生同士で切磋琢磨し合える、普段とは違った学びの場をぜひ体感してみてください。実行委員一同、たくさんの学生の皆様のエントリーをお待ちしております。

なお、JBCCは各ビジネススクールから有志のスタッフが集い、学生の、学生による、学生のための大会として運営を行っております。この大会の趣旨にご理解いただき、ご支援下さいます皆様に、実行委員を代表し、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

JBCC2020実行委員長
宗村 慶太

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

審査方法、ＪＢＣＣ大会の流れ



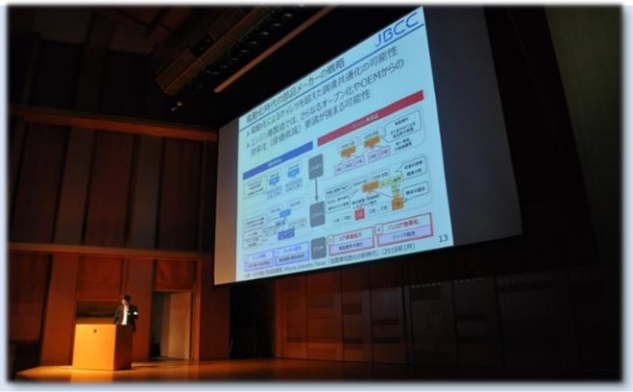
Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

前回大会本選（グランドファイナル）の様子

JBCC

今回はオンライン開催を予定していますが、会のクオリティ自体はリアル開催と同様の水準を維持できるよう、対応していきます。

出場者によるプレゼン



受賞チームの歓喜の様子

観覧者

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

審査員の方の講評

JBCC

講評について

- HP上に、前回大会における審査員の方の講評をアップしています。
- 大変奥深い洞察力で、審査をして頂いていることが分かる他、自身の学びにもプラスになります。

㈱経営共創基盤 冨山様の例

株式会社 経営共創基盤
代表取締役CEO　冨山 和彦 様

改めまして、皆さん、ご苦労様でした。今回で10回目ということですが、最初からずっと携わってきて変遷を見てきた僕から言わせると、だんだんケースはオーソドックスになっていて、その分、逆に難しくなっています。例えば今回のような機能材で製造業ベースのオーソドックスなケースですと、審査員が持っている知見と皆さんの知見の非対称性が大きくなってしまうため、審査員側がとても有利になります。だから、厳しい突っ込みを受けた人には申し訳ないですけど、そういうこともあると。また、そういう意味では、相対的に難しくなっているので大変だったと思いますが、逆にここまで持ってきたということは本当に立派なことです。僕はレベルが足りていないと質問しないことにしていますが、皆さんの出来が良かったため多くの質問ができたので、今日は割とインスパイアされ非常に楽しかったです。

あともう一点、今日の本選まで進んで最後のグランドファイナルのプレゼンテーションまで届かなかったチームもいますが、一応、優勝、準優勝を決めなきゃいけないということだけで、実力差は誤差みたいなものです。ですから、今日ここにたどり着いた人はみんなウィナーだと思っていいです。その辺は、皆さん誇りを持ってください。

その上で総評・講評に入ります。実はこのケースは結構、普遍性を持っているケースであり、このビジネスの背景には、グローバリゼーションという現象と、デジタルトランスフォーメーションという第4次産業革命的な話が二つともかぶってきています。これは今、こういうハードウエア系の産業に全部共通していますが、何をもたらすのかというと、要するに経済がグローバル化すればするほど、そこで現実に行われているビジネスは、意外と単純なグローバルビジネスではなくなっていって、マルチナショナル、マルチローカルビジネスになっていっちゃうんです。おそらく日本の自動車メーカーからすると、30年前の自動車ビジネスは、もっと単純なグローバル産業でした。日本で同じモノを作ってバーッと世界中に輸出しているだけですから。

ところが、今どうなっているのかというと、自動車産業っていうのはむしろマルチナショナルビジネスに変わっています。ですから、1000万台クラブとかって言っている人がいますが、あんな概念はほとんど意味がありません。要は、はるかにその地域ごとの固有コストの比率が高くなっていて、地産地消型になっているわけですから、1000万台作ろうが200万台作ろうが、大して事業経済性上の有利不利はないです。実際に調べてみてください、スケールと収益性にはほとんど関係はありませんから。だからビジネスとしては難しくなるんですよ。

また、グローバル展開しようとすると、昔はそれぞれの地域でモノだけ出していればよかったのですが、今はそれぞれの地域でそのサービス網、生産、開発、マーケティングを全部やんなきゃいけないわけですから、こういう時期にマルチナショナルでやるほうが金はかかります。逆にいっちゃうと、あえてマルチでやらなくてもいいんです。グローバリゼーションもいりません。なぜかみんなグローバル化症候群、恐怖心で、グローバルにならないと生き残れないなんて思っていますけどね。

ちょうど20年前に、小売業でその議論があって、日本中の小売りがウォルマートになるんじゃないかみたいなことを言っている人はいましたが、僕からしたら小売業はもともとマルチローカルもいいところで、そんなことが起きるわけないと言っていたんですね。実際、起きなかったでしょう？日本中、ウォルマートにならなかったんです。つまり現在はその産業が持っている本来の経済特性というものがもろに出る時代になっています。皆さんは今後、色々な産業に関わると思うんですが、グローバル化という言葉の表層的なイメージにごまかされないでください。本当は、その産業はどんなビジネスなのかを考えることが大事です。

例えば、ウーバーがやっているシェアリングサービス。あれは完全にマルチローカルであり、本当の意味でのグローバルビジネスではありません。だからある国ではウーバーが強いしある国では負けるんです。Googleがやってることとは全然違うんですよ。なので、そこはちゃんと見てもらえるといいの

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

過去出場者・先輩のインタビュー

JBCC

先輩インタビュー

- HP上に、各大学の過去出場者にＪＢＣＣの感想を聞いた「先輩インタビュー」というコーナーを設置。
- ぜひ先輩のメッセージを聞いてみてください。

インタビューの一例

先輩インタビュー

慶應義塾大学大学院　経営管理研究科

JBCCは、いわば総合格闘技。あらゆる科目の視点を総動員して取り組む。

森永 健太さん

所属：重工業界（前職）

部署：海外営業部・係員

– JBCCに参加を決めたきっかけは何でしたか？その時の気持ちは？

クラスメイトが誘ってくれたことがきっかけです。当初、校内でも説明会があったり、先輩から参加を促されていましたが、授業の課題もある中で自分にはハードルが高く感じてしまい、参加には消極的でしたが、そのきっかけから、これも良い機会だと思い参加することにしました。今思い返せば、その時思い切って参加してよかったと思います。

– 最も思い出深いエピソードは何ですか？

提出締切日に学校に集まって、提出期限（午前0時）のぎりぎりまでみんなで資料をブラッシュアップしたこと

授業の課題もこなしながらの日々の中で、非常に大変でしたが、無事に提出できた時にはみんなで労い合い、

果敢に挑戦しないと味わえないものだと思います。

– 当初の目的・目標に対して、収穫はありましたか？

個人的な目標はMBA生としての成長でしたが、その意味において収穫はあったと思います。具体的には、チ

め、外部・内部分析のやり方、経営戦略の立案の手順など、間近で学ぶことができて大変勉強になりました。

また、本戦を観戦した際、本選出場チームと私たちの違いはどこにあるのか、意識しながら観戦したことで

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

過去大会のケーステーマ

JBCC

過去大会のケーステーマ一覧			
2013	エレクトロニクス	2017	家具
2014	学習塾	2018	自動車部品
2015	書店	2019	農業機械
2016	アパレル	2020	？？？(お楽しみに！)

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

JBCCのケースについて

JBCC

- 例年、時流やトレンドを捉えて、テーマを変えながら、コンサルティング会社と共同でケース作成を行っております。
- ＪＢＣＣはマーケティング、財務、人事など、個別問題ではなく、総合的な観点で経営課題に向き合う力を問います。
- 単なる経営戦略コンペではなく、経営的レベルでの視点、プレゼン能力、本気で実行できるか、その熱意までもが評価対象となります(チームワークもかなり大事)。参加される方には、ぜひケースの奥深くまで堪能いただきたいです。
- 過去のケースについて：HPのメインメニュー「過去の大会」から各年度のページの「課題ケース」及び「ケースライターの意図」をご覧ください。

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

情報入手先

ＪＢＣＣ公式 HP	ＪＢＣＣ公式 Facebookページ
（https://jbcc.jimdo.com/）	（https://www.facebook.com/JBCC.MBA/）

で、随時大会情報をアップデートしてます。

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.

最後に・・・

ご清聴ありがとうございました。

ビジネススクール生同士で切磋琢磨し合える、普段とは違った学びの場をぜひ体感してみてください。

皆さんのご参加、心からお待ちしています！

ＪＢＣＣ２０２０実行委員会

Copyright © 2020 ＪＢＣＣ Execution Committee All rights reserved.